



Title	日本の大学における超短期受け入れプログラムの比較考察
Author(s)	中野, 遼子
Citation	多文化社会と留学生交流 : 大阪大学国際教育交流センター研究論集. 2020, 24, p. 35-41
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/79092
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本の大学における超短期受け入れプログラムの比較考察

中野 遼子*

要 旨

本稿は、留学生受け入れプログラムの改善や今後新たなプログラムを開発する際に必要な点を明らかにするため、大阪大学と他大学で実施されている超短期受け入れプログラムの比較考察を行った。まず、SGUのタイプAに採択された13校と国際性で評価の高い国際教養大学が実施する18の超短期受け入れプログラムについて、宿舎費込／別の2つに分類し、比較検討を行った。その結果、多種多様なプログラムがあったが、共通点としては、6月～8月開講、2～4週間の初級日本語と専門科目、そして日本文化体験学習を含むプログラムが多く実施されており、これらが現在の日本の大学における超短期受け入れプログラムの主流になっていることが明らかとなった。

【キーワード】 超短期プログラム、受け入れプログラム、留学生、大学の国際化、SGU

1 はじめに

現在、政府は受け入れ留学生数を増加する方針を掲げている。大阪大学でも3,000人の留学生受け入れを目指しており、国際教育交流センターは留学生受け入れプログラムの開発を進めている。2011年度からは、2ヶ月未満の短期日本語研修プログラムJ-ShIP (Japanese Short Stay In session Program) が開始され、毎年度30名以上が参加するプログラムとなっている（近藤、2012）。また、2018年度には、学外機関と連携して無給の職業トレーニングプログラムExPERTを開始し、新たな短期受け入れプログラムの形を提示することができた（中野、2018）。しかし、海外の大学から短期受け入れプログラムについては様々な要望があり、プログラム期間や内容、そして参加費を見直すことが喫緊の課題となっている。

そこで、本稿では、日本の他大学の短期受け入れプログラムの比較検討を行う。そこから、現在、超短期受け入れプログラムに関してどのような需要があり、将来的にどのようなプログラムを開発すべきかについて考察し、報告する。

2 先行研究

先行研究を検討する前に、まず、「超短期プログラム」について簡潔に述べる。近藤（2009: 45）によれば、超短期プログラムは「留学ビザを要せず3ヶ月以下の短期滞在ビザ中に完結するプログラム」である。本稿でも、この定義に従う。

超短期受け入れプログラムについては、近年、多くの実践報告が学術誌等で見られるようになった。まず、大阪大学の実践報告では、近藤（2009）が、単位付与、参加要件、提供する授業のシラバスについてなど、超短期プログラムの継続に必要な項目について述べている。また、近藤（2012）は、J-ShIPの開発手順や宿舎について報告している。そして、勝田（2018）はJ-ShIPの日本語授業に関するアンケートを分析し、授業内容の改善点について検討した。

他大学における留学生受け入れプログラムに関しては、金ら（2018）、辻村ら（2018）、松尾ら（2018）、山森理恵（2019）による実践報告がある。ここから、大学ごとに内容や期間などを工夫して、様々なプログラムが開発・実施されていることがわかる。さら

* 大阪大学国際教育交流センター特任助教

に、松尾ら（2018）では、超短期日本語学習プログラム修了生にアンケート調査を実施し、プログラムの教育的効果に対する考察も行った。

このように、超短期受け入れプログラムに関する実践報告は数多くあり、またプログラムの教育的効果に関する論文も見られるようになった。しかし、他大学のプログラムを比較検討した報告は見当たらない。そこで本稿では、本学と他大学のプログラムを比較することで、現在どのようなプログラムが開講されており、今後需要が高いプログラムとは何かについて簡単な検討を行う。

3 調査方法

本項では、調査方法について述べる。まず、調査対象大学として、SGU（スーパーグローバル大学）のタイプA（トップ型）に採択された13の大学を選択した。具体的には、大阪大学をはじめ、北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、広島大学、九州大学、慶應義塾大学、早稲田大学、である。これらの大学を選んだ理由は、世界大学ランキング日本版¹⁾のトップ10を占めており、大学の国際化に貢献していると考えたからである。また、同ランキング10位の国際教養大学は「国際性」の評価が高いため、同様に調査対象とした。調査方法は、各大学のホームページに掲載されている超短期プログラムの情報を収集し、表にまとめた。そのうち、2019年度に実施していない超短期プログラムは対象外とした。また、ホームページにプログラムの日程や参加費が掲載されていないものも比較できないため、表から除外した。さらに、部局が実施しているプログラムは数多くあったが参加者が限定されるため、今回は言及していない。プログラムの日程は、具体的な日付の目安を示すために年度に関わらず、2019年12月現在に、最新の情報として掲載されているものを記載した。次項では、調査結果を提示する。

4 結果と考察

上記大学の超短期プログラムを調査した結果、全部で18のプログラムを取り上げることができた。各大学が特色ある様々な超短期受け入れプログラムを実施しているが、宿泊費込（表1）か宿泊費別（表

2）かで、プログラムを大きく2つに分類することができた。そこで本稿では、宿泊費込と宿泊費別のプログラムに分けて、プログラムを比較し、共通点や相違点について述べる。

4-1 超短期受け入れプログラム（宿泊費込）

18のプログラムのうち、宿泊費込のプログラムは9つである。これから、大阪大学と他大学のプログラムについて、費用、時期、内容の観点から比較検討を行う。

(1) プログラム参加費

まず、プログラム参加費について比較する。九州大学は4週間で19万円と安価なプログラムを提供しているが、東北大学は、4週間で329,000円、東京工業大学は10週間で425,500円、早稲田大学は4週間で490,000円、国際教養大学は335,000円となっており、4週間以上のプログラムは一般的に30万円を超えていることがわかる。大阪大学のJ-ShIPは、8週間で27万円、4週間で18万円であり、安価な価格設定だといえる。しかし、近年は、増税や参加者数増加などの影響により、採算を取ることが困難になりつつある。今後、他大学を参考にして価格設定を見直す必要があるだろう。

(2) プログラムの時期

プログラムの時期は、J-ShIP（冬）以外が、5月から8月の間に開講されており、アメリカ、イギリス、中国、韓国といった海外の大学の夏季長期休暇期間に合わせて設定されている。しかし、春季長期休暇期間中のプログラムはあまり見られなかった。ここから、6月～8月に超短期受け入れプログラムの需要が高いことがわかる。

(3) プログラム内容

全てのプログラムが英語で開講されており、日本語の授業だけでなく、日本文化や専門に関する授業なども開講されている。また、華道や茶道、武道などの体験学習が含まれるプログラムが多い。大阪大学は、日本語の授業を中心にカリキュラムが組まれているが、他大学のプログラムは、サバイバル日本語や日本語初級コースを提供しており、大学体験が中心のプログラムとなっている。

4-2 超短期受け入れプログラム（宿泊費別）

次に、宿泊費別のプログラムは9つあった。これらのプログラムは、参加者自身で宿泊場所を予約・

表1 超短期受け入れプログラム（宿泊費込）

大学	プログラム名	参加費合計	単位	定員	時期	期間	宿舍	内容	日本人学生 サポーター	研修旅行	備考
大阪大学	1 J-ShIP (夏)	270,000円	8単位	50人	6/18～8/9	約8週間	・アパート ・ホームステイ	・初級日本語	あり	有料	なし
	2 J-ShIP (冬)	180,000円	4単位	30人	1/6～2/7	約4週間	・アパート ・ホームステイ	・中級日本語	あり	有料	なし
	3 EXPERT	60,000円	4単位	4人	7/1～9/1	約8週間	・ホームステイ	・英語教育施設による職業ト レーニング	なし	なし	・ホームステイ先で英語を教え ることにより、宿泊費を安価に 設定している。
東北大学	4 TUJP 1	329,000円	8 ECTS	20人	5/7～6/23	約4週間	・ホームステイ	・初級日本語、初級日本語 ・英語で日本の文化、政治、教 育、法律に関するクラス ・茶道、華道、和太鼓などの体 験学習	記述なし	有料	・協定校の学部生のみ受け入れ ・英語スコア TOEFL iBT 70が 必要
	5 TUJP 2	189,000円	4 ECTS	20人	7/1～7/14	約2週間	・ホームステイ	・初級日本語、初級日本語 ・英語で日本の文化、政治、教 育、法律に関するクラス ・茶道、華道、和太鼓などの体 験学習	記述なし	有料	・協定校の学部生のみ受け入れ ・英語スコア TOEFL iBT 70が 必要
東京工業大学	Tokyo Tech Summer Program	425,500円	・実験と日本学 授業は2単位 ・初級日本語は1 単位	35人	6/4～8/8	約10週間	・寮	・研究室訪問、実験 ・サバイバル日本語 ・日本文化学習・体験	記述なし	記述なし	2020年度は不開講
九州大学	SUJ (Summer in Japan)	190,000円	・専門2単位 ・日本語1単位	30人	6/23～7/17	約4週間	・前半 寮 ・後半 ホーム ステイ	・英語による専門の授業 ・初級日本語、中級日本語 ・フィールド学習	あり	記述なし	・GPA 3.2 / 4.0以上 ・TOEFL iBT 79以上
早稲田大学	WASEDA SUMMER SESSION	490,000円	・専門2単位 ・日本語1単位		6/20～7/17	約4週間	・アパート ・ドミトリ	・英語による14の専門講義 ・初級日本語	記述なし	有料	・日本語コースは追加料金が必 要
国際教養大学	Summer Program	335,000円	6単位	40人	6/16～7/28	約6週間	・寮	・初級日本語 ・日本文化体験学習	記述なし	あり	・交換留学生は、185,000円 ・GPA 2.5 / 4.0 以上 ・TOEFL iBT 65以上

2019年12月現在（出典：各大学のホームページをもとに筆者作成）

表2 超短期受け入れプログラム（宿泊費別）

大学	プログラム名	参加費合計	単位	定員	時期	期間	宿舍	内容	日本人学生 サポーター	研修旅行	備考
北海道大学	10 HSI (Hokkaido Summer Institute)	1コースあたり 14,800円	1コースあたり 1～2単位	記述なし	6/1-10/31の 約2週間	約2週間～	・学生寮 (早期申込 者のみ)	・期間中、150以上の英語による 専門コースが開講 ・どの講義も期間は1～2週間程 度	記述なし	記述なし	・国際交流イベントや日本文化体験 イベントも用意されている。
	11 TESP (Robotics and EEE Course)	15,000円	4 ECTS	記述なし	7/19～8/9	約2週間	各自で用意	・講義、実習、研究室訪問 ・日本文化体験学習	記述なし	有料	なし
	12 TESP (SMEC and BMEC Course)	80,000円	4 ECTS	記述なし	7/19～8/9	約2週間	各自で用意	・講義、実習、研究室訪問 ・日本文化体験学習	記述なし	有料	なし
東京大学	13 UTokyo Global Summer Program (JARU Courses)	75,000円	2単位	記述なし	・6/22～7/3 日本語コース ・7/2～7/15	約2～4週 間	各自で用意	・日本語導入コース ・3つのプログラムから選択 (Sustainable Urban Management, Japan in Today's World, Nanoscience)	記述なし	記述なし	・大学院生や工学部限定の短期プロ グラムを含めると全部で14コース ・TOEFL iBT 90、IELTS 6.5以上
名古屋大学	14 NUSIP (Summer Intensive Program at NU)	・2500ドル (約 27万円、協定校 学生) ・2700ドル (約 30万円、協定校 以外)	・専門講義、 初級日本語、 各3単位	40人	6/17～7/22	約6週間	各自で用意	・専門コース ・初級日本語 ・企業訪問、研修旅行	記述なし	あり	・10名までは名古屋大学学生の参加 も可
	15 NUSTEP (Nagoya University Short-term Japanese Language Program)	60,000円	記述なし	30人	・7/11～25 ・2/5～20	約2週間	各自で用意	・中級日本語、エクスカーション、 名古屋大学学生との交流、研 究室見学、日本文化体験、ホーム ビジット、専門コース	記述なし	あり	・参加資格は、中級（日本語能力試 験N3・N2 レベル、CEFR A2・B1） 以上の日本語能力をもつ者。
慶應義塾大学	16 Keio Summer Program	264,000円	8単位	記述なし	5月末～7月末	約8週間	各自で用意	・様々な分野の15以上の英語に よるコースを4つ以上受講する ・サバイバル日本語、ビジネス日 本語	記述なし	記述なし	・GPA 2.5 / 4.0 以上 ・TOEFL iBT 79, IELTS: 6.0以上 ・2単位のコースを4つ受講すること ・日本語コースは1単位
早稲田大学	17 Short-term Japanese Program (3 weeks)	70,000-145,000 円	・SB1 3単位 ・SB2 2単位 ・SB3 1単位 ・WB 2単位	記述なし	・6/15～7/3 ・12/2～ 12/22	約3週間	各自で用意	・初級日本語	記述なし	記述なし	なし
	18 Short-term Japanese Program (6 weeks)	205,000円	4単位	記述なし	12/2～1/27	約6週間	各自で用意	・初級日本語	記述なし	記述なし	なし

2019年12月現在（出典：各大学のホームページをもとに筆者作成）

用意する必要がある。ここでは前項同様、宿泊費別プログラムの費用・時期・内容について比較検討を行う。

(1) プログラム参加費

まず、プログラム参加費については、北海道大学は、受講したコース分の授業料を徴収している。東北大学の日本語授業と研究室訪問を含むプログラムは2週間で15,000円と80,000円、名古屋大学の同様のプログラムは60,000円と比較的安価である。東京大学は日本語導入コースと専門コースを選択できるプログラムを75,000円で提供している。

また、名古屋大学の6週間のプログラムは27~30万円であるが、初級日本語、専門コースのほかに、企業訪問や研修旅行もプログラムに含まれている。また、ホームページでは、おおよそのプログラム参加費を米ドルで記載していることも興味深い。米ドルで書くことで、日本円に馴染みのない応募者に安心感を与える効果があると思われる。

慶應義塾大学は、8週間で4つの専門コースを受講して264,000円となっている。早稲田大学は短期日本語学習プログラムであるが、3週間のプログラムでは、4つの日本語コースが選択でき、それぞれ単位数と価格が異なっている。3週間で70,000~145,000円となっており、6週間の4単位コースは205,000円である。研究室訪問を含むプログラムは比較的安価であるが、日本語や専門コースが含まれると少し値段が高くなっていることがわかる。北海道大学は、留学生だけでなく正規学生も受講することができるため、かなり安価な値段での提供が可能になったと思われる。

(2) プログラムの時期

プログラムの時期は、ほとんどのプログラムが6月~8月に開講されている。早稲田大学の日本語プログラムは12月~1月にも開講されており、オセアニア圏の大学に合わせた時期を設定している。名古屋大学は2月にも研究室見学や日本文化体験コースを含む大学体験プログラムを提供しており、受け入れに力を入れていることがうかがえる。北海道大学は、6月~10月の間に1~2週間の英語による専門コースを150以上開講するHokkaido Summer Institute (HSI)を実施しており、参加希望者は自分でプログラムをカスタマイズできるようになっている。

(3) プログラム内容

プログラム内容は様々であるが、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、慶應義塾大学のプログラムでは、選択専門コースが含まれている。北海道大学は、HSIを実施するために協定校等から教員を招聘し、150以上の英語コースを提供している。そのうち、学部生向けは30コース、大学院生向けが120コースとなっている。4ヶ月間、多くの英語コースが提供されることで、留学生が時期や受講科目を自由に選択することが可能となり、参加者の増加が期待できるプログラムとなっている。また、名古屋大学は、土地の特色を活かして企業訪問等を用意している。早稲田大学は、宿泊費込のプログラムでは専門コースを提供しているが、日本語コースは宿泊費別として提供されている。

4-3 考察

ここまで、宿泊費込および宿泊費別に分類して、超短期プログラムの比較検討を行った。ここで、プログラム全体を検討すると、期間は6月~8月に開講されているものが多く、また日本語集中コースよりは、初級日本語、専門コース、研究室訪問、そして日本文化体験学習を含む「日本のキャンパスライフ体験」を提供するプログラムが多いといえる。また、プログラム参加費も大阪大学のプログラムよりは高く設定されているものが多い。そのため、今後、費用設定を再考する際に参考になると思われる。また、6つのプログラムが研究室訪問を含んでおり、理系学生向けに設定されていた。近年、研究室訪問や実験実習ができるサマーコースの要望が増加している。大阪大学にも理系学生向けのサマーコースはあるが、定められた協定校の学生しか参加することができない。そのため、今後、より多くの学生が参加できるように理系学生対象のサマーコースの開発が望まれているといえるだろう。

研究室訪問と同様に要望が多いものが、インターンシップである。特に、経済・経営学部からの問い合わせが多い。今回の調査では、インターンシップを提供する超短期受け入れプログラムの有無を確認することも目的の一つであったが、名古屋大学のNUSIPによる企業訪問しか見当たらなかった。その理由としては、おそらく、部局レベルのプログラムにはインターンシップも組み込まれていると思われるが、サマーコースでの提供はまだ多くないからだと思われる。そのため、大阪大学で実施している8

週間の職業トレーニングプログラム、ExPERTは比較的新しい取り組みであるといえる。現在は、まだ限定的なプログラムであるため、今後どのようにシステム化し、受け入れ機関や参加者を増加させるか、工夫する必要があるだろう。

5 まとめと今後の課題

本稿では、SGUのタイプA（トップ型）に採択された13の大学と、国際性において評価の高い国際教養大学が実施している18の超短期受け入れプログラムについて、宿泊費込／別に分けて、比較検討を行った。そこから、多くの大学が、6月～8月にプログラムを開講していることがわかった。また、プログラム参加費については、専門コースの数や、日本文化体験の度合いにより値段が異なっていたが、どのプログラムも大阪大学より高めに設定されていることが明らかとなった。そして、プログラムの内容については、各大学が特色あるプログラムを提供していた。特に多かったものは、日本語や専門コースを受講できる2～4週間のプログラムであった。ここから、6月～8月に2～4週間程度の超短期受け入れプログラムが、現在主流であるといえる。しかし、近年、超短期インターンシッププログラムの要望も高まっていることから、今後、上記の時期・期間を参考に開発する必要があるだろう。

最後に、今後の課題について述べる。本稿では、限られた大学のプログラムしか提示できなかった。そして、本稿で取り上げたプログラム以外にも、部局や分野を限定した特別なプログラムがあったが、今回はその全てを取り扱うことができなかった。今後は、本稿の調査対象以外の大学についてもプログラムの情報を収集し、より包括的に調査を進めたい。そこから、将来どのような受け入れプログラムが求められるのか、明らかにしたい。また、超短期プログラムの教育的効果に関しては、派遣された日本人学生を対象としたものは多く見られるが、超短期受け入れプログラムに関しての先行研究はあまり見られなかった。そのため、今後は、受け入れプログラムの教育的効果についても調査する必要があるだろう。それらについては、今後の課題とし、別稿で論じる。

注

1) THE、「世界大学ランキング 日本版」(2019/12/24 閲覧)

<https://japanuniversityrankings.jp/rankings/>

参考文献

- 勝田順子 (2018) 「2016-2017年度短期日本語教育プログラム“夏 J-ShIP” — 実施概要及び評価・課題について」『多文化社会と留学生交流』第22号, p.13-18.
- 金蘭美・小川誉子美・半沢千絵美 (2018) 「これからの短期留学プログラムの形 — アンケートの結果から見えてきた課題と展望 —」『日本語教育方法研究会誌』第24(2)号, p.122-123.
- 近藤佐知彦 (2009) 「21世紀型『超短期』受入プログラム開発 -30万人時代の受入構築に向けて」『多文化社会と留学生交流』第13号, p.45-55.
- 近藤佐知彦 (2012) 「SSプログラム J-ShIP の一年目 — 新コンセプト超短期日本語プログラムへの挑戦」『多文化社会と留学生交流』第16号, p.97-106.
- 近藤佐知彦 (2017) 「現代のホームステイのあり方に関する一考察 — 宿舎は留学生の学習・異文化理解を担えるか —」『ウェブマガジン 留学交流』第78号, p.12-32.
- 辻村真由子・和住淑子・池崎澄江・飯田貴映子・銭淑君・杉田由加里・野崎章子・北池正・眞嶋朋子 (2018) 「タイ王国コンケン大学看護学部生受入れプログラムの開発・実施と評価」『千葉大学大学院看護学研究科紀要』第40号, p.73-79.
- 中野遼子 (2018) 「学外連携型短期受入プログラム開発の試み — ExPERT (Extension Program for Education in Real-world Trainings) の実践報告を中心に —」『大阪大学第3回豊中地区研究交流会』(ポスター発表)
- 松尾憲暁・福富七重・加藤 淳・初鹿野阿れ・椿由紀子・徳弘康代 (2018) 「NUSTEP 修了生に対するアンケート調査 — 超短期日本語プログラムの学習効果に関する一考察」『名古屋大学国際教育交流センター紀要』第5号, p.5-19.
- 山森理恵 (2019) 「日本人学部生・在学留学生と共に学ぶ短期プログラム -2017年度ヨウツェノ学院短期プログラムの報告」『東海大学紀要, 国際教育センター(留学生支援教育部門・国際教育部門)』第9号, p.159-167.

参考ウェブサイト

大阪大学国際教育交流センター、「Short stay programs」(2019/12/24)

<http://ex.ciee.osaka-u.ac.jp/shortstay-programs/index.html>

九州大学「Short-term Programs」(2019/12/24)

<https://www.kyushu-u.ac.jp/en/admission/short-term>

慶應義塾大学国際センター「Keio Summer Program 2020 Overview」(2019/12/24)

http://www.ic.keio.ac.jp/en/study/short/summer_program/summer_program_information.html

国際教養大学「Summer Program」(2019/12/24)

<https://web.aiu.ac.jp/en/short-term/summer-program/>

東京工業大学「Tokyo Tech Summer Program」(2019/12/24)

https://www.titech.ac.jp/english/graduate_school/international/exchange/summer_program.html

東京大学「Special and Short-term Programs」

https://www.u-tokyo.ac.jp/en/prospective-students/special_programs.html

東北大学グローバルラーニングセンター「Short Programs」(2019/12/24)

<https://www.insc.tohoku.ac.jp/english/short/>

名古屋大学「NUSIP」(2019/12/24)

<https://www.engg.nagoya-u.ac.jp/en/nusip/>

名古屋大学「NUSTEP 名古屋大学短期日本語プログラム」(2019/12/24)

<http://ieec.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/nustep/>

北海道大学「Hokkaido Summer Institute 2020」(2019/12/24)

<https://hokkaidosummerinstitute.oia.hokudai.ac.jp/>

https://hokkaidosummerinstitute.oia.hokudai.ac.jp/hh_students/

早稲田大学「WASEDA SUMMER SESSION」(2019/12/24)

<http://waseda-summer.com/>

早稲田大学日本語教育研究センター「About the Short-term Japanese Program」(2019/12/24)

<https://www.waseda.jp/inst/cjl/en/applicants/s-term/about/>